

就学前教育

**就学前教育と小学校教育の円滑な接続
～発達や学びの連続性を踏まえて～**

就学前教育では、5領域に示すねらいが総合的に達成されるように教育・保育を行うことにより、生きる力の基礎を育みます。その成果が小学校につながり、より豊かな小学校生活を送ることができるようになります。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子ども一人一人の成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達や学びを理解することが重要です。

保育参観後の話し合いの例 ～「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」を視点の一つとして～

事例 4歳児「レストランごっこ」

数人の子どもたちが保育室でレストランごっこをしていた。自分の体験からレストランのメニューには何か書かれていたことを思い出したAは、自分でも作ろうと紙とクレパスを持ち出した。知りたい文字を保育者に尋ね、書いてもらった文字を真似て、メニューを書いていた。Bが紙に数字を書いてお金を作り始めた。Cは、お店が閉店したことが分かるように「おやすみ」と看板に書いた。保育室に掲示している時計を指差し、次の開店を知らせるD。お客さんの人数を数え、不足分の椅子を準備するEとF。一人一人が遊びのイメージをもち、それらを共有しながら遊びを展開していた。



事例 5歳児「郵便屋さん」

文字への興味が高まり、友達同士で手紙やカードを交換して遊ぶ姿が見られた。郵便ポストを作る子どもがいるかもしれないと推測し、保育室に空き箱を用意しておいた。

箱を見つけたAが、早速郵便ポストを作り始めた。BやCが加わり穴を開けたり色を塗ったりして完成させた。ポストができるとDとEがこのポストに手紙を入れたいとやって来た。Aは自分たちが作ったポストに手紙を入れてもらったことを喜び、手紙を嬉しそうに配り始めた。それを見ていたFとGも手紙を書いてポストに投函した。投函したり友達や保育者に届けたりする郵便屋さんごっこが始まった。

幼保 子どもが関心をもったことを十分体験できるような環境を構成しています。一人一人の経験の違いを把握し、主体的に活動できるように援助しています。

園長 遊びの様子からその子の心の世界を推測し、応答的に関わるようにしています。子どもを理解することは、保育の出発点だと考えています。

小 遊びと密着した形で文字の意味や役割が認識されたり、記号としての文字を獲得する必要性が次第に理解されたりしていくのですね。

幼保 子どもにとっては、文字も数字も遊びをより面白くするツールの一つです。遊びの中で親しむ体験を多様に重ねていくことができるよう配慮しています。

小 互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりしているのですね。

校長 遊びの中で学ぶことの楽しさを感じているのですね。遊びや生活を通じて、積極的に物事に関わろうとする過程で資質・能力が育まれ、小学校以降の学びに向かう力へとつながるのですね。

Point 互いに足を運び、子どもの育ちを複数の目、長い目でつないで支えていく体制が必要です。

一人一人の子どもの発達や学びを理解する上で大切にしたいこと

【一人一人の発達の特性】 自発的な活動としての遊びを通して、子ども一人一人の発達の特性に応じて資質・能力は育っていくものではないことに留意する必要があります。

【興味や関心】 表現したい、伝えたいという気持ちを受け止めつつ、日常生活の中で触れてきた文字を使うことで、文字を通して何らかの意味が伝わっていく面白さや伝える喜びを味わえるようにすることが大切です。

【多様な経験】 生活と切り離れた形で覚え込ませる画一的な指導ではなく、一人一人の興味に合わせ、遊びの中で、その子どもが必要に応じて文字を読んだり、書いたりする楽しさを感じる経験を重ねていくことができるように、環境を構成していくことが大切です。

【学びに向かう力】 遊びを通じた総合的な指導の中で育まれた資質・能力が、主体的に自己を発揮しながら学びに向かう力へとつながります。

授業参観後の連絡協議会での話し合いの例 ～育成を目指す資質・能力の三つの柱や「10の姿」を視点として～

幼保 子どもたちが、主体的に学び合う姿に驚かされました。小学校は、児童相互の関わりを大切にしながら資質・能力を育成しているのですね。「主体的・対話的で深い学び」の視点で学びの質を高めている小学校教育につながるためには、遊びの中で創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことができるように、保育の質を高めることが大切だと感じます。

小 以前「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に保育参観させていただき、子どもの姿の捉え方に違いがあることに気付きました。子どもの内面を読み取り理解することが大切なのですね。園での生活や遊びを通して、身に付けた資質・能力を存分に発揮できるような授業づくりを考えたいです。

園長 こうして話し合うことで、より一層子どもの姿を共有することができると感じました。交流についても育ちのつながりという視点で見直しがあればよいと思います。

校長 今までは交流活動自体が目的になっていたかもしれませんが、活動を通してお互いにもどんな力を育てたいのか、ねらいを明確にするためにも打合せが必要ですね。今後も、発達や学びの連続性を踏まえたつながりを大事にした連携を図っていきましょう。

発達や学びの連続性を踏まえたつながり

